



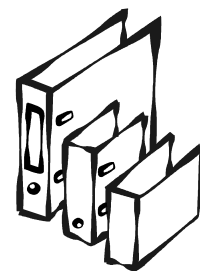
国語科教室

スタディ・ガイド

東京学芸大学 A類国語コース B類国語コース

このガイドは、国語科の専門分野の学習計画を立てる上で、大事な諸注意や参考となる情報をまとめたものです。国語科教室での学修や研究について知るために、ぜひ参考にしてください。

1. 専門分野の履修にあたって



国語科は、基本的に小・中学校教員の養成を国語教育という立場から行おうとするものです。国語教育を成り立たせるものは基礎科学と教科教育学です。この両者は車の両輪のようなもので、双方の充実した均衡があつてこそ、はじめて国語教育が成り立つのです。私たちの大学の教育学部国語科と、他大学の文学部等との違いはここにあります。

★国語科における五つの専門領域

上記の基礎科学と教科教育学を、国語科では以下の五つの専門領域に分けています。

基礎科学 : 日本語学 日本文学（古典文学・近代文学） 中国古典学 日本語教育学
教科教育学 : 国語科教育学

さて、皆さんが学習計画を立てるうえで、この五領域のどこにどのように比重をかけるかは、基本的に自由です。国語科において展開される授業は、皆さんが自分なりの国語教育観を持ち、また国語教育を実践する素養と実力を獲得するための支援としてあります。ですから、専門性をより深めるために、自分の興味・関心に基づき特定の領域を中心に履修するのもいいし、幅広い視野に立って、国語教育を考えてみるために偏りなく五領域を履修するのもよいでしょう。いずれにせよ、履修の仕方によって自分なりの国語教育観がつくられ、また自分の国語教育観によって履修科目が決まってくるといえます。

どのような履修をするかは、往々にして自分の将来像と直結します。

このことを念頭において学習計画を立ててください。

★日本語教育サブコース（2023年度より改称）について

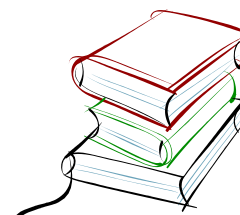
2015年度から、A類国語科の中に、日本語教育コース（旧名称）が設置されました。グローバル化の中で「日本語」を用いた教育は国語の教科の時間以外にも多様に広がっています。学校の中でも外国につながる子どもの増加は重要な学校課題となっています。A国の中に日本語教育サブコースを設置することで、国語教科指導とともに、そうした子どもたちに対する教育支援や国内外での外国人に対する日本語教育の専門性もA国の中で培えるようにしています。

日本語教育サブコースについては、2年次からA国の中に選択で設置されます。サブコース選択の説明会については、国語科の秋学期の1年生オリエンテーションの際に詳しく説明されます。すでにサブコース選択を考えている人は、1年時に「外国人児童生徒への日本語教育（春学期SE）」と「現代社会と日本語（秋学期CA）」を受講しておくことを勧めます。（また上の科目自体は日本語教育サブコース希望でなくても、ことばを用いた教育の重要な科目ですので、ぜひお待ちしております）

以下、それぞれの領域の授業内容について紹介します。

【日本語学】 日本語学は、言語研究の対象として日本語を研究する学問です。この学問の諸領域の構成と基礎知識は「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」（1年次必修）で学びます。「日本語学演習」では具体的に言語資料を扱い、その分析のしかたを学びます。自分でことばを調べてみると、日本語の特色やしくみがよくわかるようになります。「日本語文法」と「日本語音声」では、前者は文法・文章、後者は音声・音韻などの各領域について、より丁寧に考察する科目です。日本語教育の「現代日本語文法」「日本語教育と言語学」も知の裾野を広げてくれます。また、日本語学で卒業論文を書こうと思う人は「日本語学基礎研究」「日本語学応用研究」を必ず履修してください。

なお、1、2年次に複数の外国語を履修しておくこと、日本語を観察する視野が広がるでしょう。



【日本文学】 日本文学の授業科目としては、「古典文学」と「近代文学」とに大別されていますが、専門領域としては、時代別に上代（奈良）・中古（平安）・中世（鎌倉・室町）・近世（江戸）・近代（明治以降）に区別されます。研究室もおおむねこの分類によっています。日本文学に興味を持っている人、日本文学研究で卒業論文を書く人は、関心の対象に応じてどの研究室に属するかが決まります。研究室で先生や先輩の指導と助言を受けながら、各自の研究・卒業論文製作に励むこととなります。

卒業論文の準備は早いほどよいのですが、そのためにはまず、ぜひ研究したいと思えるような対象を探ることです。これはと思う文学者や作品に出会ったら、その作家の書いたものをできるだけ多く、のめりこむように読むことです。その一方で研究と直接には関係しないような、幅広い読書も心がけてください。〈思い込んだら命がけ〉と〈急がば回れ〉という矛盾するような読書が、優れた研究成果を生むことになるでしょう。

【中国古典学】 中国古典学の専攻領域としては、大きく文学・文化・言語に分かれます。文学・文化では、古典を中心に学ぶことができます。言語では、古典・現代の中国語について、さらに日本と中国の漢字の比較研究など、幅広く学ぶことができます。「中国古典演習」などの授業を履修するのみならず、各研究室の扉をすすんでたたき、先生や先輩に相談してください。



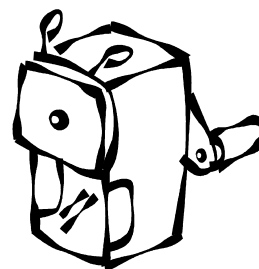
なお、悠久の歴史を持った中国の文化を学ぶためには、何よりも言葉の習得が肝心です。そこで、1、2年次に開かれている中国語の授業を積極的に履修してください。

【日本語教育学】 ①日本語を母語とする人にとっての、日本語の教育と、②日本語を母語としない人にとっての、日本語の教育。これまで、私たちが想定している「日本語を学ぶ・日本語を教える」というのは、①の「国語教育」の範疇で考えられていました。しかし、今の時代はグローバル化の時代。国境を越えて人も物も移動します。そのため、日本の中でも、日本の外でも、②のような形で日本語を学ぶ必要のある人、学びたい人は増えてきています。日本の学校でも、日本語を母語としない外国人の子どもが多くなってきています。その対応を学校・教師はできるようになっていかなければ



ばなりません。そうした「母語としての日本語」「教科としての日本語」を越えて、グローバルに、人と日本語、社会と日本語の観点を持って、教育を考えていくのが、「日本語教育」です。1年生の「日本語教育概論」からはじまります。

【国語科教育学】 国語科教育学は、国語科の実践（授業）と理論について研究する学問領域の一つです。皆さんも、小学校や中学校、高等学校の国語の授業で、物語や小説を読んだり、作文を書いたりしたと思います。こうした国語科の授業の目的や方法、また、その学習の材料になる教材などについて追求するのが、国語科教育学の研究内容となります。



国語科教育の研究は、単に教え方について考えるだけでなく、基礎科学としての日本語学や日本文学、中国古典学などの研究の成果に、直接的に関係します。これらの領域の研究に関わって、その成果を国語科の授業にどのように生かしたらよいかを考えるのです。そのために、「初等国語科教育法」や「中等国語科教育法」などの講義科目があります。

また、こうした学んできた内容は、「教育実地研究」（いわゆる「教育実習」のこと。3年次の秋学期と4年次の春学期・秋学期に行います。取得する教員免許の種類によって、回数や校種が変わります）で、実際に子どもたちの前で授業をすることに直結します。

<番外ポイント1> 大学の教員は「大学は教員と学生が学問するところだ」と考えているので、質問されるとどの先生も親切に答えてくれるはずです。教室での質問は当然として、ポイントは、思い切って研究室を訪ねること。基本的、初歩的な質問でも、時間さえあればトコトン付き合ってくれます。ときにはお茶やコーヒーを飲みながら、ということもあります。

なお、国語科の専任教員については、「東京学芸大学スタディ・ガイド」や大学のホームページに、簡単ですが紹介されています。

★その他の履修上の注意

○「標準開設学期」について

カリキュラムにある授業科目は原則として記載されている「標準開設学期」に従って履修してください。それは卒業単位の取得や免許取得に問題が起こらないように配慮を加えてカリキュラムを立てているからです。

○「講義と演習」

国語科が開設している授業科目の形態は、大部分が講義か演習です。

講義は主として教師が学生にその学問の意義や理論、方法等の話をする形態ですが、大事なことは一時間一時間が皆さんの予習・復習を前提として成立しているということです。

演習は主として学生が調査研究してきたことを発表する形態で、活発な質疑応答や議論が命です。「演習」科目は2年次から出てきますが、自分の専攻領域の「演習」はさらに3年次、4年次でもできるだけ受講するようにしましょう。ただし、人数が集中すると当該学年以外には受講できない場合があります。

<番外ポイント2> 国語科に関する事で分からないことは誰に聞けばいいか？学務課の担当事務職員、国語科事務室にいる助手の三ツ石さん、担任（指導教員）の先生、授業担当の先生、そして先輩や友人などに遠慮せず声をかけてみよう。皆さんの疑問に親切に答えてくれるはず。

2. 卒業論文



卒業論文のことを、ふつう「卒論」といっています。卒論は大学4年間の勉強の集大成です。もちろんA類もB類も必修です。

3年次春学期になると、卒業論文作成に向けての導入として「〇〇〇基礎研究」を、さらに同秋学期にはその延長線上で「〇〇〇応用研究」を履修したうえで、4年次の卒論作成に入ります。「基礎／応用研究」は上記の五領域に所属する専任の先生が全員開講しています。

ここで気をつけてほしいのは、国語科では2年次の秋から冬にかけて卒論指導教員の希望調査と調整を行って、所属する研究室が決まることです。ですから、卒論そのものは制度的には4年次の科目ですが、実際には2年次の秋までに、自分がどの領域でどのようなテーマの卒論を書きたいかを、1、2年次での授業や自主ゼミやオフィスアワーを通しておおよそ決めておきましょう。卒論の準備は早いほどよいのです。

・卒論へのタイムテーブル（時期については変更されることがあります。）

<2年次>

11月下旬～12月中旬 説明会と研究室訪問

12月下旬～1月上旬 面接

1月下旬～2月上旬 所属研究室決定

<3年次>4月学年はじめ … 「基礎研究」履修登録

秋学期 … 「応用研究」を履修

2月初旬 … 「仮題目届」を提出

<4年次>4月学年はじめ … 「卒業研究」履修登録

5月上旬 … 「題目届」を提出

12月（20日頃） … 卒論提出締め切り



これらの提出や締め切りの日時は厳守です。提出時間に遅れると卒業できません。大学生活全般で書類提出は「時間厳守」であることを今から肝に銘じておくのがよいでしょう。

<番外ポイント3> 「卒論」の指導はいつ受けるのか？3年次の「基礎／応用研究」の授業は曜日や時限が時間割のうえで決まるので、原則としてその時間に指導を受けるということになります。4年次には決められた枠はありません。したがって、担当する先生と相談して指導を受ける日時を決めることとなります。どのように指導時間を設定するかは先生によって違います。

3. 課外ゼミ（自主ゼミ）

カリキュラムにある授業科目を補完するものとして、課外ゼミ（自主ゼミ）があります。これは先輩たちの築き上げた伝統を受け継いでいるものです。自主的なものですから単位とは全く関係がなく、学生の意欲と教員のボランティアによって支えられているゼミで、1年次から参加でき、卒業するまで（熱心な人は卒業後も）多大なものを吸収することができます。また、自分たちで新しいゼミを発足させることもできます。

ゼミには現在、下記のものがあり、「東京学芸大学国語国文学会」の活動の一環として位置づけられています。この位置づけのことや、どのようなゼミが、どのようなゼミ活動をしているかについては、ポスターセッションやプレゼミなどが用意されています。ここにはそのゼミの一覧を示しておきましょう。皆さんの積極的な参加が期待されています。

明治文学ゼミ/ 大正文学ゼミ/ 昭和文学ゼミ/ 国語教育ゼミ/ 国語科教材研究ゼミ/
文章論ゼミ/ 日本語学ゼミ/ 中国文学ゼミ/ 萬葉ゼミ/ 源氏ゼミ/ 中世文芸ゼミ/
近世文学ゼミ/ 年少者日本語教育ゼミ/ ことば実践研究会/
国語実践ゼミ/ 児童文学ゼミ/ 批評×評論ゼミ/

4. 卒業後の進路

国語科を卒業したものの進路を大別すれば、教職と教職外です。本学の学則には、「有為な教育者を養成することを目的とする」とありますが、現代における「教育」は公教育にとどまらず、社会教育や生涯教育をも射程に入れることは常識になっています。そうであれば、国語科の皆さんが進む進路は、教職をはじめとして多様であってよいのです。あなたの教育観や習得した学問への姿勢が生かせる世界であることが大事なのです。

4年間はあっという間に過ぎます。大学の出口にある就職や進学のことを、大学の入り口に立っている今日から考え始めることは、早いように思えるかもしれませんが、しかし決してそのようなことはありません。常に考え続けていくことが大切なのです。

国語科卒業生の最近の進路の概況は次のとおりです。

- (1) 教職：小学校・中学校・高等学校・海外日本人学校など。最近では教員需要が好転していますので、目標を持って頑張りましょう。ただし、中学校や高等学校の場合、東京都と他県では募集状況が異なります。一方、地域によっては、小学校・中学校両方の免許状が要求されることもありますので、それに備えることも必要です。高等学校の教員を希望する人は、最近大学院修了者を採用するところが増えつつありますので、そのことも念頭において進路を考えることが必要です。
- (2) 企業：出版・放送・銀行・保険会社・商事会社・航空会社・建設業・製造業・販売業など、様々な職種、企業に進出しています。企業の場合でも、教育実習の経験や教員免許状を持っていることを重視する傾向があるようです。企業への就職は、時期的なことも、探し方も、試験の仕方なども教職の場合とは相当異なりますので、就職情報コーナー（学務課2階）でよく情報を集める必要があります。本学は企業への就職に本腰を入れ始めてからの歴史が浅いので、

学務課の就職担当窓口の職員と積極的に協力し合っていくことも必要でしょう。

(3) 公務員：県庁や市役所に就職する人も増えてきています。この場合も教育実習の経験があったり、教員免許状があったりするほうが有利なことがあるようです。

(4) 大学院進学：研究を継続し、より発展させるために大学院に進学する人が増えています。本学には、教育に関する高度な資質能力を養成するための教職大学院があります。また、より広い専門分野を研究するために、他大学の大学院への進学も可能です。大学院進学の場合は、進路先の情報を事前によく調べておく必要があります。さらに、各大学で行われる大学院説明会に参加するのも有益です。

<番外ポイント4> 教職・就活に関する情報や支援については、大学が頻りにセミナーやガイダンス等を行っているので、ぜひ活用してください。また、友人や先輩と話をしながら具体的なヒントやアドバイスをもらえることがあるので、日常のコミュニケーションも大切にしましょう。

☆四年間、充実した学生生活を作り上げることを祈っています！



UNIVERSITY